

栃木県観光市場に関する調査

2010年11月

掲載情報（またはレポート内容）につきましては、当社は正確な情報、内容を提供できるよう細心の注意を払っておりますが、正確性もしくは完全性を一切保証するものではありません。



株式会社 あしぎん総合研究所
Ashigin research institute

はじめに

本調査は、栃木県の観光市場の現状と課題を浮き彫りにし、さらなる観光活性化・発展に向けた方向感を探るために実施した。

1. 栃木県の観光宿泊市場概況

- ・栃木県の“観光宿泊市場”の現状および見通しについて、各種公開情報をベースに分析した。

2. 首都圏在住者の観光旅行実態調査

- ・栃木県観光宿泊市場のメインターゲットである“首都圏在住者”を対象とした、
「グループインタビュー調査」
「インターネットアンケート調査」
に基づき、栃木県観光旅行に関する実態調査を実施した。
(今回は、観光地のうち「那須、日光、鬼怒川」にフォーカスを当てた)

3. 栃木県観光市場の課題

- ・上記調査・分析結果を基に、栃木県観光市場における課題および観光活性化に向けた方向感を示した。

- 1. 栃木県の観光宿泊市場概況** P.02
2. 首都圏在住者の観光旅行実態調査
(グループインタビュー、インターネットアンケート調査) P.10
3. 栃木県観光市場の課題 P.25

栃木県の観光市場概況

- ・栃木県は、世界遺産を有し、観光客のボリュームでも国内有数の観光県である。
- ・しかし近年、日帰り客が増加傾向にある一方、宿泊客の減少に歯止めがかかっていない。

● 栃木県は関東圏唯一の世界遺産「日光の社寺」を有しており、国内でも有数の観光県である。

● 実際、栃木県の観光目的宿泊者数は多く、観光庁のデータでは全国ベスト10にランクされる。

● しかし近年、日帰り客が増加傾向にある一方、宿泊客の減少に歯止めがかかっていない。

● それに比例して、栃木県経済における観光関連産業の重要度も、非常に大きいと考えられる。

● 今後、栃木県の観光市場の拡大に向けては、“宿泊者数の増加”が一つの大きな課題である。

日本の世界遺産

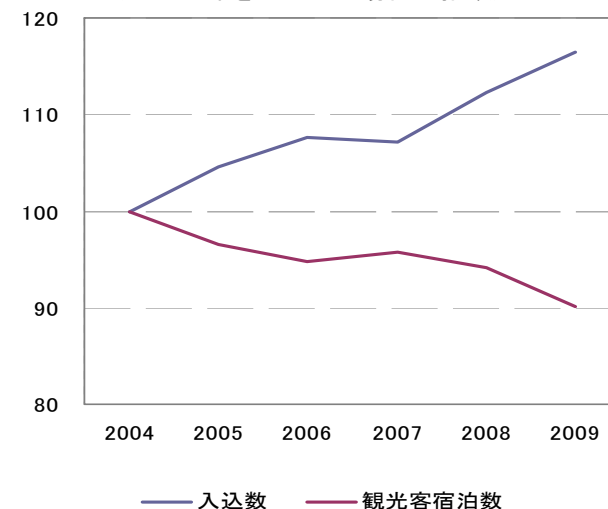
遺跡名称	遺産種別 / 登録年
1. 法隆寺地域の仏教建造物	文化遺産 / 1993
2. 姫路城	文化遺産 / 1993
3. 屋久島	自然遺産 / 1993
4. 白神山地	自然遺産 / 1993
5. 古都京都の文化財	文化遺産 / 1994
6. 白川郷・五箇山の合掌造り集落	文化遺産 / 1995
7. 原爆ドーム	文化遺産 / 1996
8. 厳島神社	文化遺産 / 1996
9. 古都奈良の文化財	文化遺産 / 1998
10. 日光の社寺	文化遺産 / 1999
11. 琉球王国のグスク及び関連遺産群	文化遺産 / 2000
12. 紀伊山地の霊場と参詣道	文化遺産 / 2004
13. 知床	自然遺産 / 2005
14. 石見銀山遺跡とその文化的景観	文化遺産 / 2007

09年 都道府県別

“観光目的宿泊者が50%以上の宿泊施設の延べ宿泊者数（上位15都道府県）”

	観光目的宿泊者が50%以上の宿泊施設の延べ宿泊者数 [万人]	(参考) 延べ宿泊者数 [万人]	順位
1 北海道	1,740	2,456 (2)	
2 千葉県	1,222	1,552 (4)	
3 沖縄県	1,038	1,151 (6)	
4 静岡県	918	1,339 (5)	
5 長野県	754	986 (8)	
6 京都府	698	854 (11)	
7 東京都	649	3,453 (1)	
8 神奈川県	569	1,138 (7)	
9 福島県	500	712 (14)	
10 栃木県	481	656 (16)	
11 群馬県	459	589 (17)	
12 兵庫県	454	828 (12)	
13 新潟県	431	728 (13)	
14 石川県	390	558 (18)	
15 大阪府	364	1,571 (3)	

栃木県の観光客入込数、宿泊数(指数)の推移 (※2004年を100とした場合の指数)



出所) 社団法人日本ユネスコ協会連盟ホームページより作成

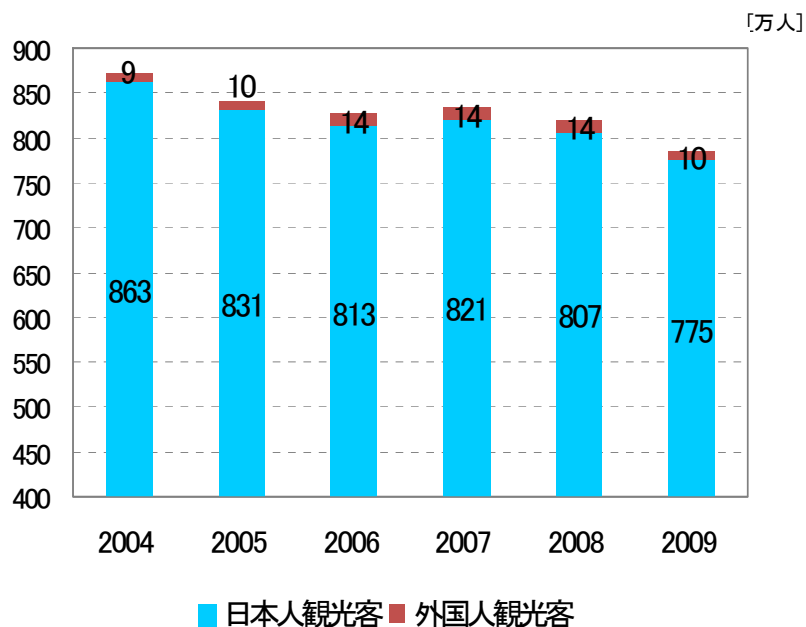
出所) 観光庁「宿泊旅行統計」より作成

出所) 栃木県産業労働観光部観光交流課
「平成 21年 栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」より作成

栃木県の観光市場概況

- ・09年の栃木県の観光客宿泊数は785万人(うち日本人は775万人、外国人は10万人)
- ・「日本人宿泊数が減少傾向にあること」、「外国人宿泊比率が著しく低いこと」等が特徴である。

栃木県の観光客宿泊数の推移



延べ宿泊者数(09年)に占める外国人比率

1	東京都	18.5%	24	茨城県	2.0%
2	大阪府	12.5%	25	長野県	1.9%
3	千葉県	10.5%	26	宮崎県	1.8%
4	山梨県	10.2%	27	宮城県	1.7%
5	京都府	9.6%	28	青森県	1.7%
6	愛知県	7.5%	29	三重県	1.6%
7	北海道	7.4%	30	秋田県	1.6%
	全国平均	6.1%	31	岩手県	1.6%
8	神奈川県	5.4%	32	鹿児島県	1.5%
9	長崎県	5.2%	33	愛媛県	1.4%
10	岐阜県	4.3%	34	岡山県	1.4%
11	福岡県	4.2%	35	佐賀県	1.4%
12	大分県	4.2%	36	栃木県	1.3%
13	熊本県	3.8%	37	新潟県	1.2%
14	兵庫県	3.8%	38	香川県	1.2%
15	滋賀県	3.5%	39	徳島県	1.1%
16	広島県	3.5%	40	山形県	1.0%
17	奈良県	3.1%	41	山口県	0.9%
18	静岡県	2.8%	42	高知県	0.9%
19	和歌山県	2.6%	43	福島県	0.8%
20	沖縄県	2.5%	44	福井県	0.7%
21	埼玉県	2.3%	45	群馬県	0.7%
22	富山県	2.2%	46	鳥取県	0.6%
23	石川県	2.2%	47	島根県	0.5%

世界遺産があるにもかかわらず、外国人宿泊者は極めて少ない。

は、世界遺産の保有エリア(複数県にまたがるケースあり)

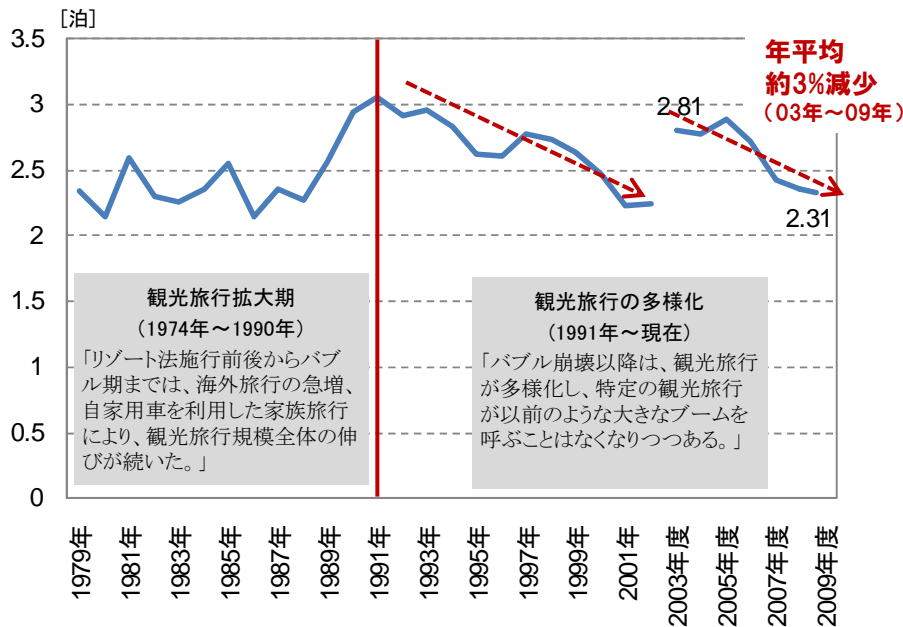
出所) 栃木県観光交流課「栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果」

出所) 観光庁「宿泊旅行統計」

日本人観光宿泊動向(日本全体)

- ・バブル崩壊以降、観光ニーズの多様化に伴い、日本人観光宿泊数は一貫して減少傾向。
- ・直近は、「家計」と「休暇」の要因により、一層減少に拍車がかかっている。
 - 構造的要因および所得要因が解消されないと、今後も日本人観光宿泊は低調に推移する可能性が高い。

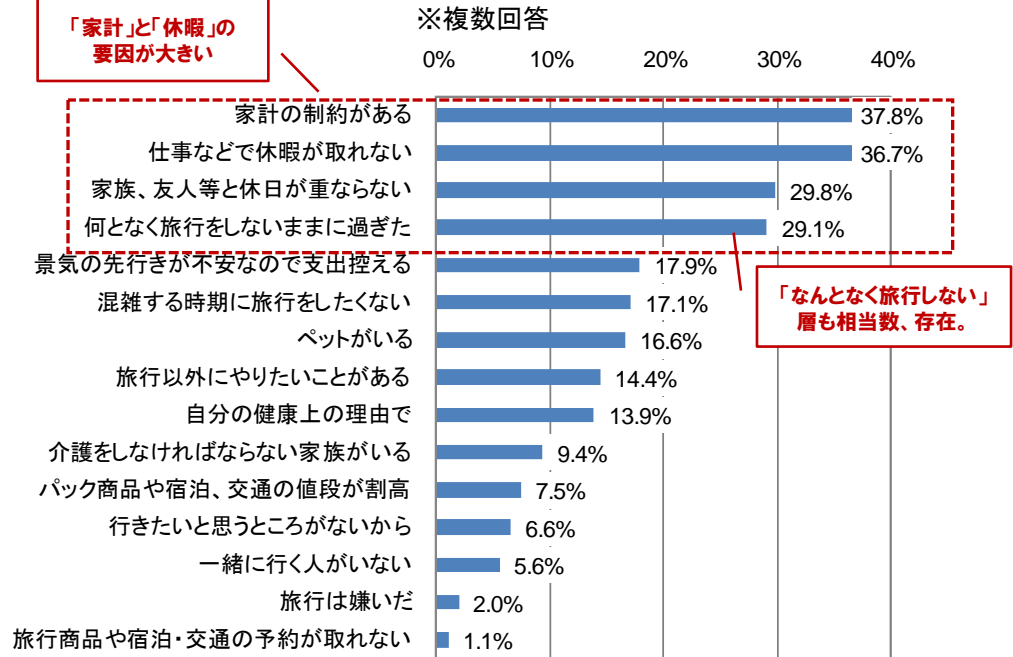
国内観光宿泊旅行における1人当たり延べ宿泊数推移



注) 2003年度から調査手法を変更し、国の承認統計として実施している「旅行・観光消費動向調査」の数値を採用しているため、それ以前との単純比較はできない。

出所) 国土交通省「観光白書」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

旅行に出かけなかった理由(08年)

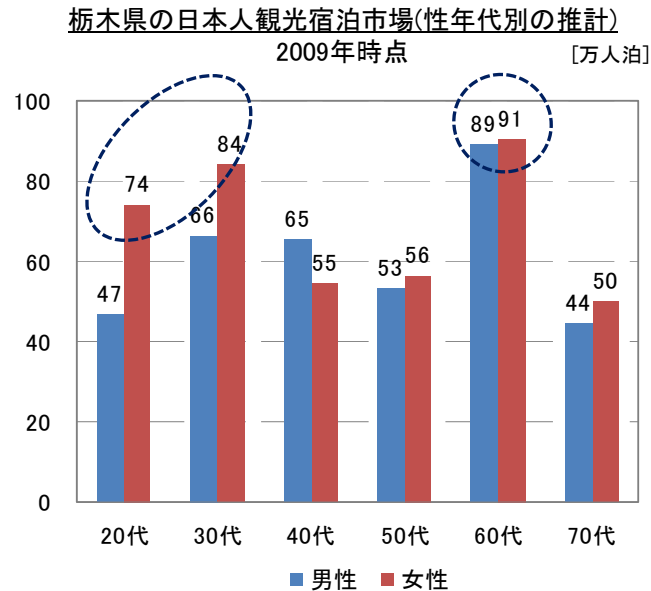


出所) 財団法人日本交通公社「旅行者動向2009」より作成

日本人観光宿泊動向(日本全体)

- ・今後、日本人観光宿泊市場においては、「高齢化」が進行していく。
- ・性年代別にみると、これまでボリュームゾーンであった“20-30代女性”の観光宿泊数が減少していく一方、“高齢者(60-70代)男女”の観光宿泊数は今後も増加していく。

性・年代別に見ると、“20-30代女性”、“60代男女”の観光宿泊が多い(推計)。



注) 2009年の栃木県の日本人観光宿泊数(775万人)を、09年時点の性別年代別1人当たり観光宿泊旅行回数(当社推計値)に09年時点の人口データ(内閣府「人口推計」)を乗じた値で、性別年代別に按分した。なお、70代についても、当社推計値。

出所) 国土交通省「観光白書」、観光庁「旅行・観光消費動向調査」より作成

今後、若年層の人口が減少し、高齢層の人口比率が増加していく。(高齢化の進行)

関東圏の人口推移(性年代別)
(2009年と2015年の比較)

人口(単位:万人)	2009	2015	15年/09年比
男性			
20代	261	236	-9.4%
30代	343	292	-14.8%
40代	302	346	14.4%
50代	271	266	-1.8%
60代	287	282	-1.7%
70代	179	213	18.9%
女性			
20代	239	215	-10.0%
30代	320	272	-14.9%
40代	279	329	17.7%
50代	264	254	-3.9%
60代	297	293	-1.4%
70代	205	244	19.2%
20-70代計	3,247	3,243	-0.1%

(参考) 関東圏を除く全国20-70代

6,403 6,371 -0.5%

70代人口は増加

今後、6年間で
20-30代女性は
1割以上減少。

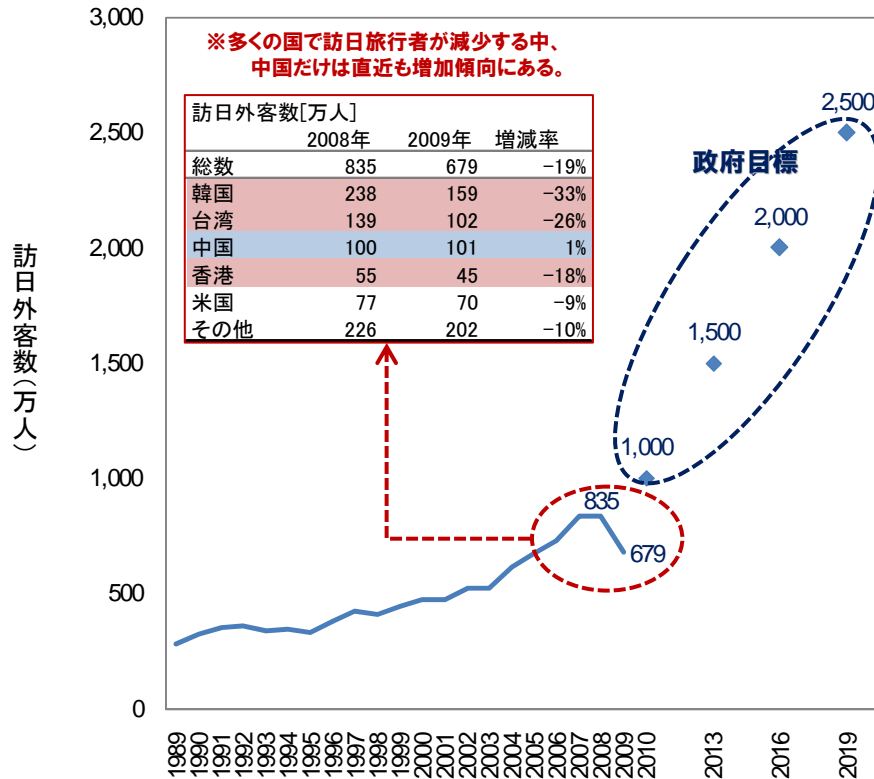
注) 2015年の数値については、人口問題研究所「日本の将来推計人口」の出生中位(死亡中位)推計値を採用。

出所) 内閣府「人口推計」、人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」より作成

外国人観光宿泊動向(日本全体)

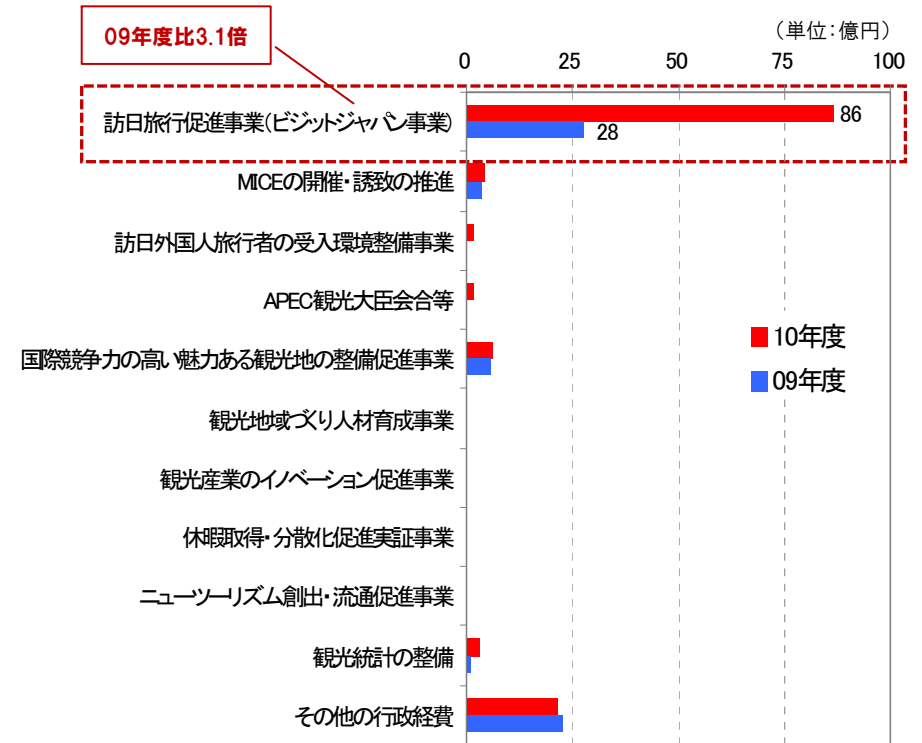
- ・世界同時不況の影響を大きく受けた外国人観光宿泊は、政府も本腰を入れて取り組んでおり、今後は増加が予想される。
- ・観光庁の10年度の訪日旅行促進事業の予算は前年度比3.1倍に増加。

訪日外客数推移、及び政府目標



出所) 日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より作成

観光庁関係予算概況(09年度、10年度)

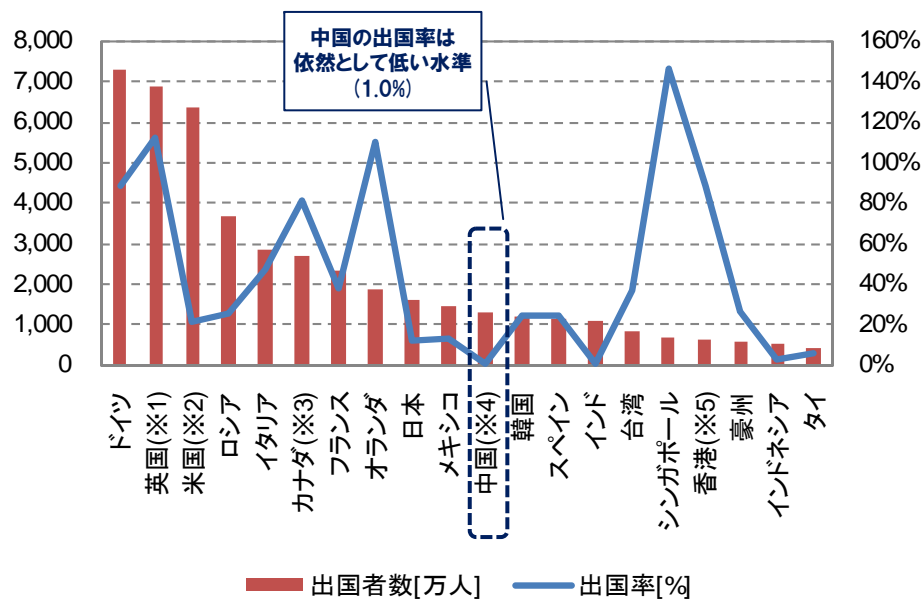


出所) 観光庁公表資料より作成

外国人観光宿泊動向(日本全体)

- 中国人の海外旅行者数(1,277万人)^{※4}は既に韓国(1,200万人)や台湾(847万人)を上回るほどに成長。
- しかし、人口当たりの出国比率(出国率)は依然、低水準(1.0%程度)にあり、今後の成長余地は極めて大きい。

世界主要国の出国者数[万人]、及び出国率[%]



- ※1 ヨーロッパ域内域を含んだ英国人出国者数
- ※2 カナダ、メキシコ行きを含んだ米国人出国者数
- ※3 米国行きを含んだカナダ人出国者数
- ※4 香港、マカオ行きを除いた中国人出国者数(含、日帰り客)
- ※5 中国本土行きを含んだ香港人空路出国者数(除、マカオ行き)

出所) 日本政府観光局(JNTO)「日本の国際観光統計2009」より作成

2015年：栃木県の宿泊市場シミュレーション

このまま過去トレンドで推移すると、栃木県観光宿泊数は10%程度、減少する可能性がある。

- ・総人口が減少に向かう中、いかに「1人当たり観光宿泊数」を維持・向上させるかがポイント。
- ・外国人宿泊数をどこまで増やせるか。しかし、2～3倍に急増しても、日本人の減少分を穴埋めするほどではない。
- ・日本人観光宿泊客では、高齢者比率が高まると考えられ、この層へのアプローチもポイント。

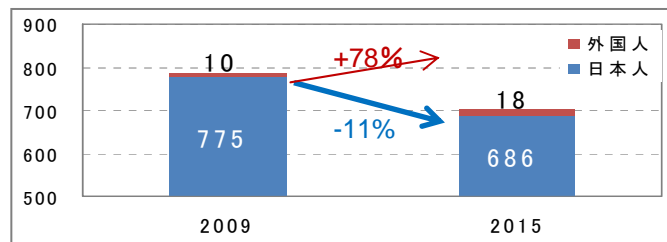
栃木県の観光宿泊市場見通し[万人]

シナリオ前提条件

シナリオⅠ

日本人:過去トレンドで減少
外国人:1.8倍に増加

09年 15年
785万人 → 704万人
(対09年比 -10%)



【日本人観光宿泊】

- 1人当たり観光宿泊数(性年代別)は、過去トレンドで減少するものと仮定。
- 関東圏人口をターゲット顧客と仮定し、人口問題研究所中位推計を利用。

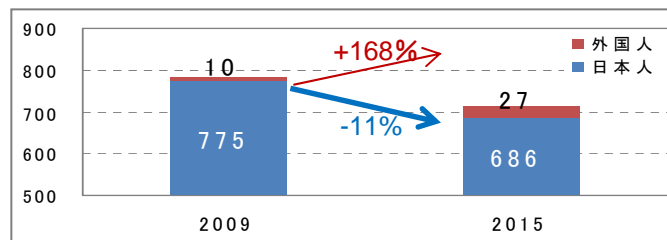
【外国人観光宿泊】

- 中国人の外国人旅行者は、2010年に2007年水準まで戻り、以後年率10%増。
- それ以外の国については、2015年に2007年水準まで戻すと仮定。

シナリオⅡ

日本人:過去トレンドで減少
外国人:2.7倍に増加

09年 15年
785万人 → 713万人
(対09年比 -9%)



【日本人観光宿泊】

- 1人当たり観光宿泊数(性年代別)は、過去トレンドで減少するものと仮定。
- 関東圏人口をターゲット顧客と仮定し、人口問題研究所中位推計を利用。

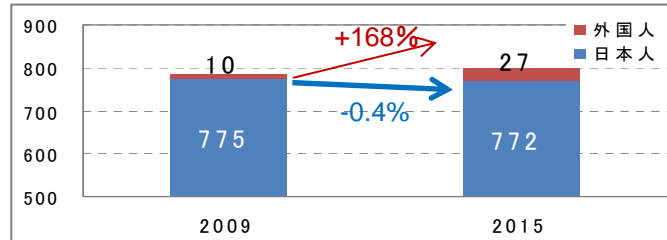
【外国人観光宿泊】

- 中国人の外国人旅行者は、2010年に2007年水準まで戻り、以後年率30%増。
- それ以外の国については、2015年に2008年水準まで戻り、以後年率10%増。

シナリオⅢ

日本人:09年水準を維持
外国人:2.7倍に増加

09年 15年
785万人 → 799万人
(対09年比 +2%)



【日本人旅行者】

- 1人当たり観光宿泊数(性年代別)は09年水準を維持すると仮定。
- 関東圏人口をターゲット顧客と仮定し、人口問題研究所中位推計を利用。

【外国人観光宿泊】

- 中国人の外国人旅行者は、2010年に2007年水準まで戻り、以後年率30%増。
- それ以外の国については、2015年に2008年水準まで戻り、以後年率10%増。

注1) 一部の数値については四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

1. 栃木県の観光宿泊市場概況 P.02
- 2. 首都圏在住者の観光旅行実態調査 P.10**
(グループインタビュー、インターネットアンケート調査)
3. 栃木県観光市場の課題 P.25

首都圏在住者の観光旅行実態調査概要

- ・栃木県観光のメインターゲットである“首都圏在住者”を対象として「グループインタビュー調査」、「インターネットアンケート調査」を実施。
- ・特に今回は、栃木県観光地のうち宿泊数の多いエリアである「那須」、「日光」、「鬼怒川」にフォーカスを当てた。

調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ● ①国内観光旅行動態の把握（1回当たり観光旅行に使う金額、各観光地エリアへの旅行経験など） ● ②栃木県主要観光地の課題・問題点の把握（ベンチマーク観光地※1と比較した際の評価など） ● ③栃木県主要観光地の改善ニーズの把握 ※特に今回は、栃木県観光地のうち、宿泊数が多いエリアである「那須、日光、鬼怒川」にフォーカスを当てた。	
調査手法	● グループインタビュー調査(実施会場:東京)	● インターネットアンケート調査
実施時期	● 2009年11月中旬	● 2009年12月上旬
サンプル条件	<ul style="list-style-type: none"> ● 5グループで実施。(各6名程度) ＜共通条件＞ ● 1都3県在住※2 20-69歳男女 ● 年1～3回以上国内旅行に行っている ● 過去5年以内に1回以上栃木県へ観光訪問実績がある 等 ＜個別条件＞ グループ1) 富裕層グループ <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢:40代以上/年収1200万円以上 グループ2) シニア層グループ <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢:58歳～70歳 グループ3) 栃木訪問【少】グループ(女性) <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢:20～30代女性 グループ4) 栃木訪問【少】グループ <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢:50代以上 グループ5) 栃木訪問【多】グループ <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢:25歳～54歳 	

※1 **ベンチマーク**は、高原リゾートとして 「那須」(軽井沢、上高地)
 歴史・文化都市として「日光」(京都、奈良、金沢) ※日光には中禅寺・奥日光も含むため、ベンチマーク都市と単純比較はできない。
 温泉地として 「鬼怒川、塩原、奥鬼怒・湯西川、川治」(箱根、熱海、草津、別府、湯布院)を設定した。

※2 現在の栃木県訪問者の約9割が関東圏居住者であることから、今回の調査では関東圏居住者、特に1都3県居住者のみを対象とした。

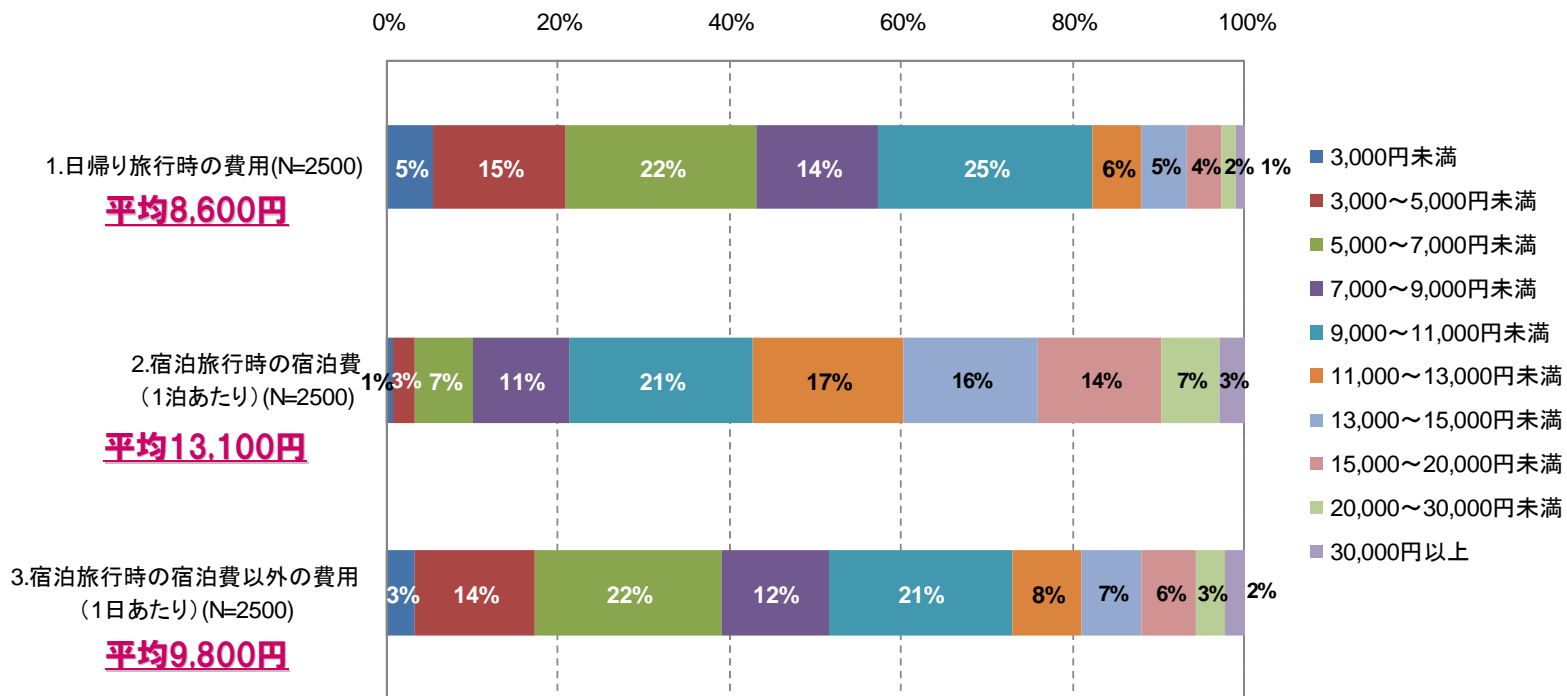
国内観光旅行動態_旅行消費額

・宿泊旅行は、日帰り旅行と比較して「1回あたり3.8倍程度」の経済効果。

- ・日帰り旅行1回当たりの平均消費額は、8,600円/人程度。
- ・一方で、宿泊旅行1回当たり平均消費額は、32,700円/人程度(1泊2日と仮定)。日帰り旅行と比較すると3.8倍程度。

旅行消費額

Q. あなたが1回の国内観光旅行時に、使う金額(1人あたり)はどの程度ですか。
日帰り旅行時、宿泊旅行時ついて、それぞれあてはまるものをお知らせください。)

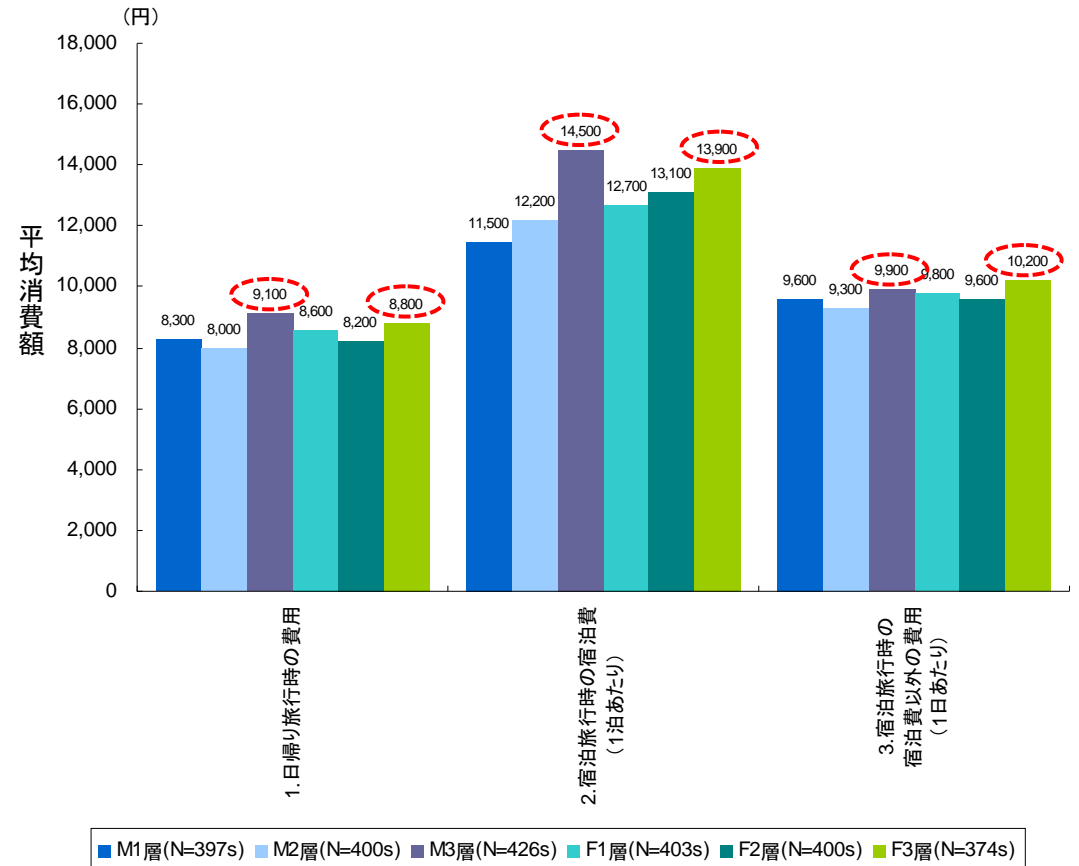
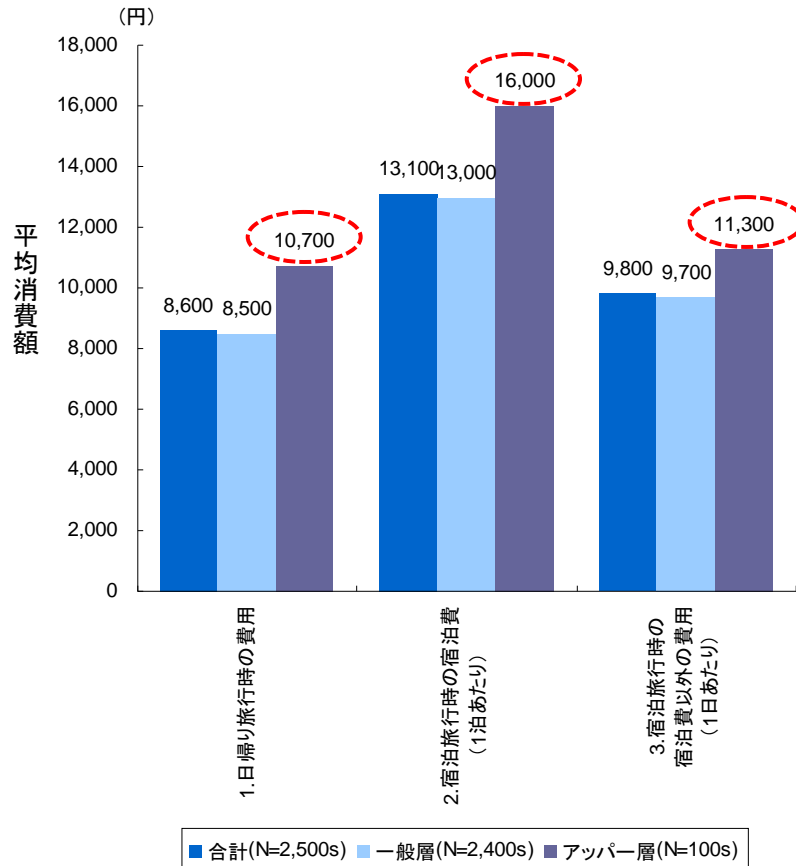


国内観光旅行動態_旅行消費額

・アッパー層、シニア層 (M3層、F3層) ほど、1回当たりの旅行における消費額が大きい。

セグメント別 旅行消費額

Q. あなたが1回の国内観光旅行時に、使う金額(1人あたり)はどの程度ですか。
日帰り旅行時、宿泊旅行時について、それぞれあてはまるものをお知らせください。



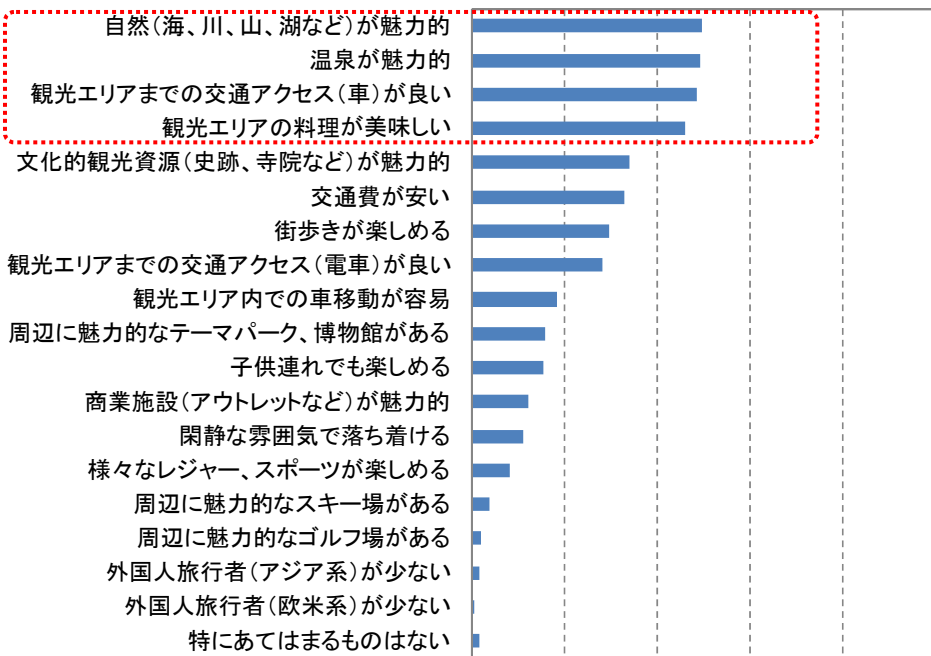
国内観光旅行動態_旅行時に重視するもの

- ・日帰り旅行の場合は、“自然”、“温泉”、“アクセス”、“料理”といった点が重視。
- ・宿泊旅行では、「温泉」、「宿泊施設(料理・部屋)」、「手ごろな価格」が重視。
→当然ながら、日帰り旅行と宿泊旅行では求められるものが異なる。

日帰り旅行

Q. あなたが国内観光旅行(日帰り旅行)先を選定する際に、重視するものを5つまでお知らせください。(最大5つ)[複数回答]

0% 20% 40% 60% 80% 100%

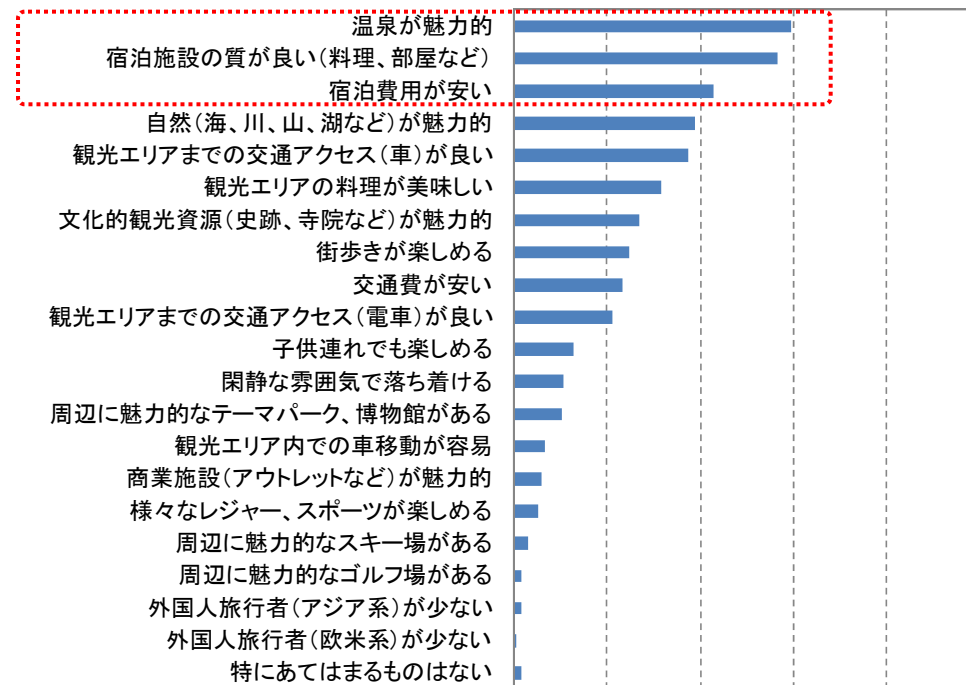


N=2,500

宿泊旅行

Q. あなたが国内観光旅行(宿泊旅行)先を選定する際に、重視するものを5つまでお知らせください。(最大5つ)[複数回答]

0% 20% 40% 60% 80% 100%



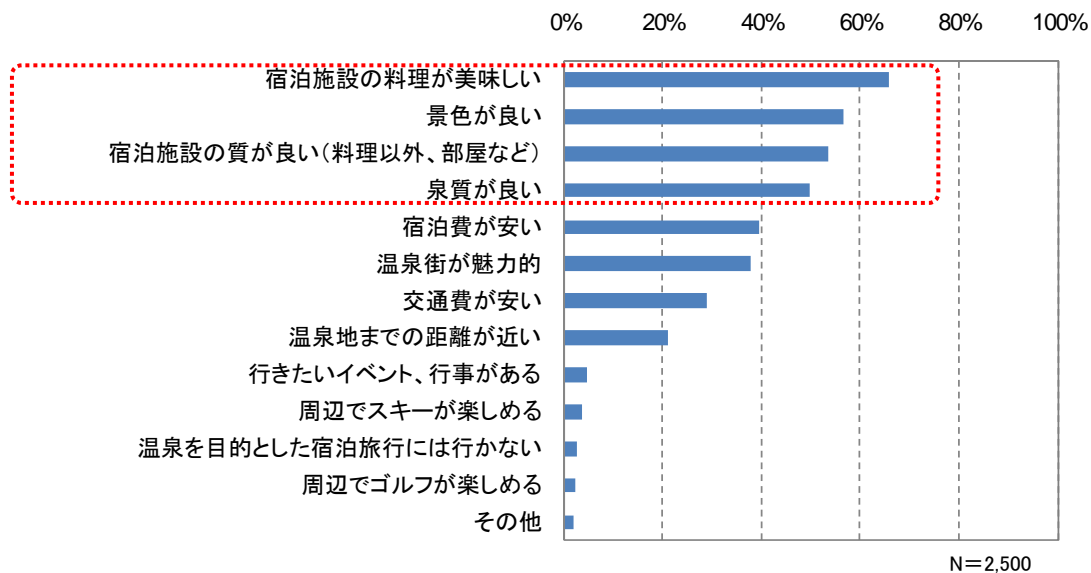
N=2,500

国内観光旅行動態_旅行時に重視するもの

・温泉宿泊旅行時には、“料理”が最重視。次いで“景色”“宿泊施設の質”“泉質”が重視。

温泉への宿泊旅行

Q. あなたは温泉を目的とした宿泊旅行に出かける際、どのような温泉地を選びますか。
温泉地を選ぶ際に重視するものをすべてお知らせください。(最大5つ)[複数回答]

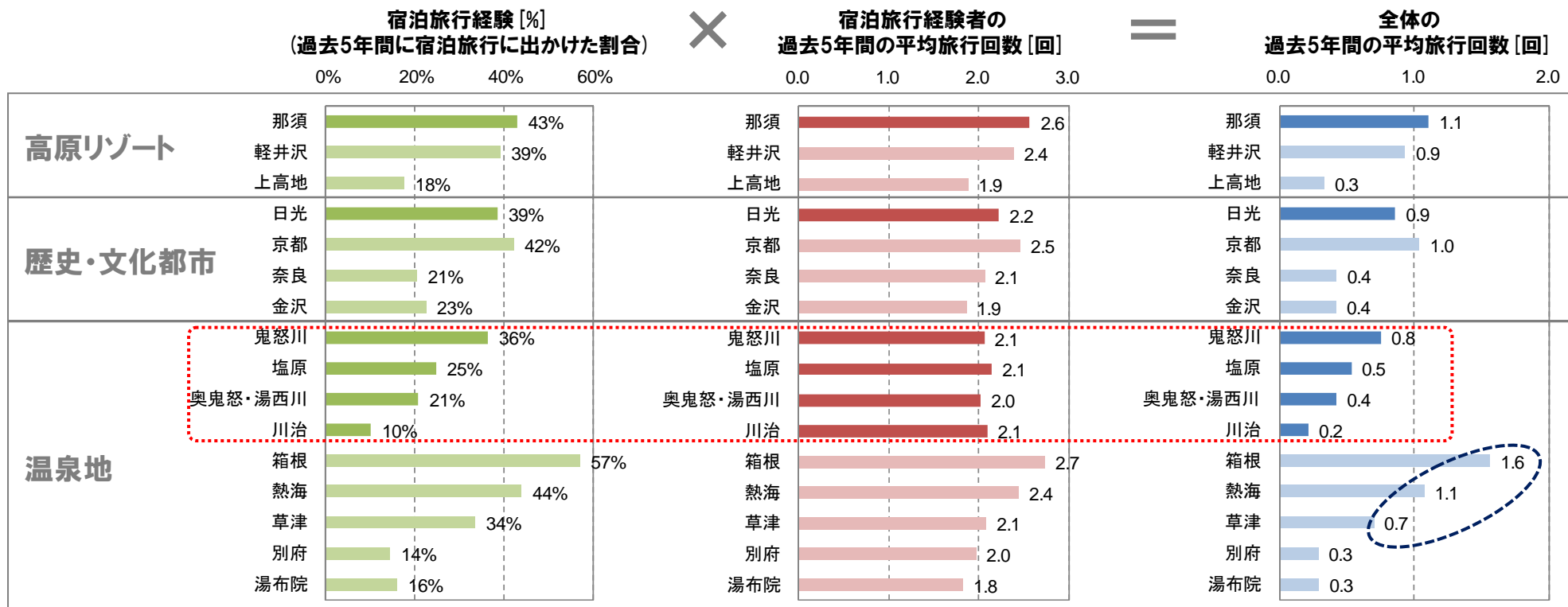


各観光地の比較_旅行回数

- ・那須、日光は、旅行経験、旅行回数ともに競合と同程度である。
- ・温泉地(鬼怒川、塩原、奥鬼怒・湯西川、川治)は、箱根、熱海が強力なライバル。

宿泊旅行経験、平均旅行回数

Q. 以下の観光エリアへ、あなたは過去5年間でどの程度宿泊旅行に出かけましたか。



N=2,500

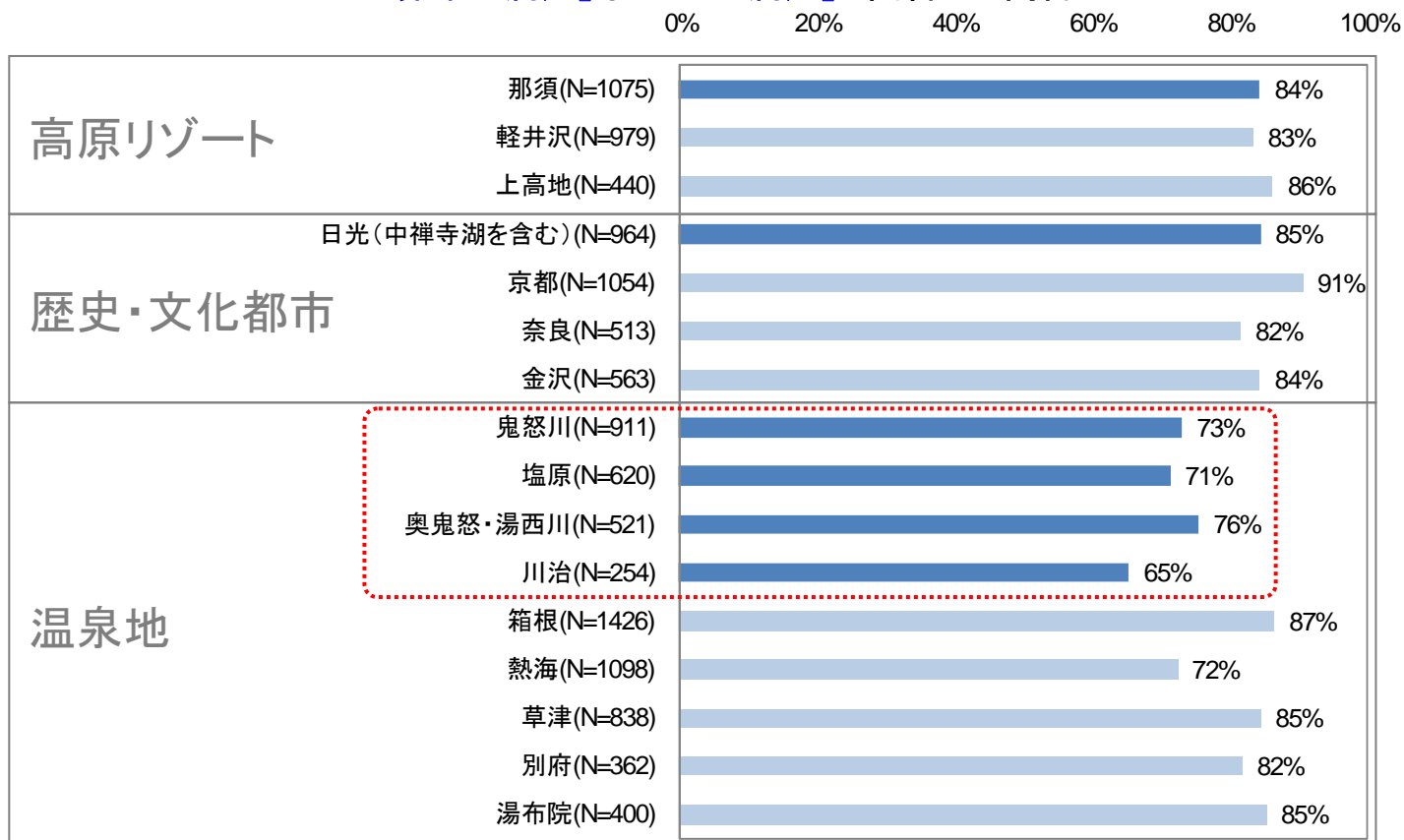
各観光地の比較_満足度

- ・那須、日光の満足度は、競合ベンチマークエリアと同程度である。
- ・温泉地(鬼怒川、塩原、奥鬼怒・湯西川、川治)の満足度は、やや低い。

各観光地の比較:満足度

Q. あなたが過去5年間で宿泊旅行に出かけた以下の観光エリアの評価として、あてはまるものをお知らせください。

※「非常に満足」ないしは「満足」と回答した割合



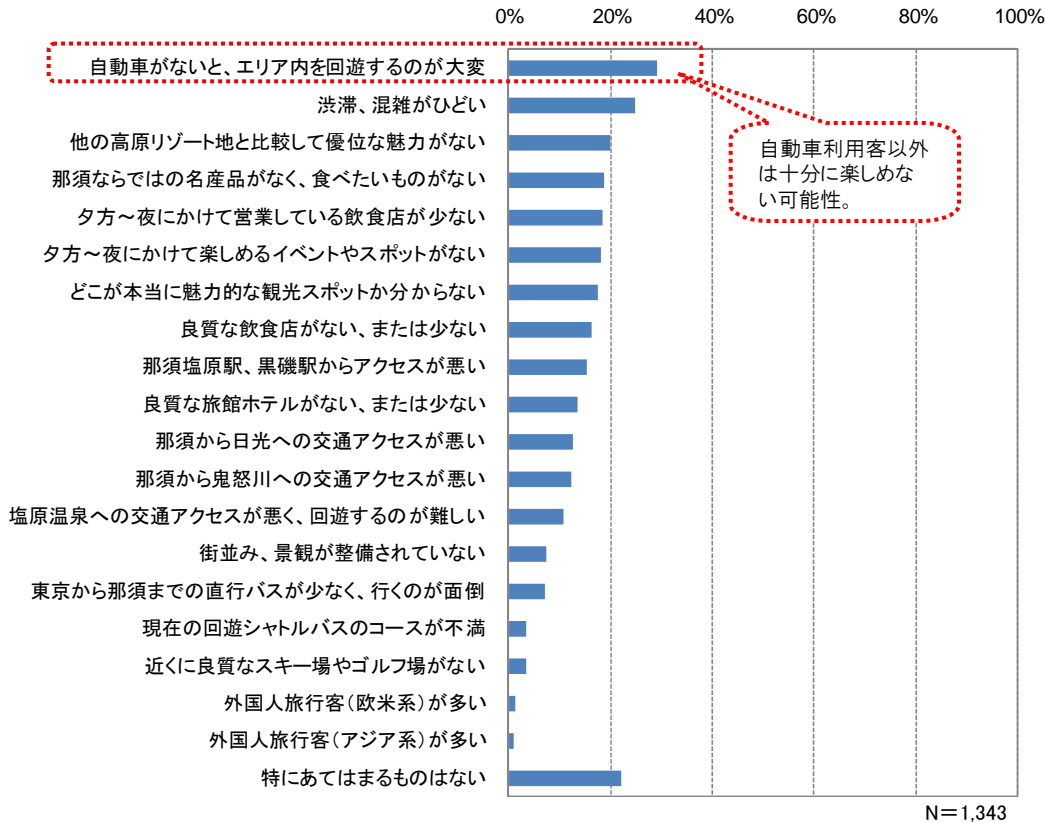
注) 過去5年間の旅行経験者の評価であり、現在の状況を正確に反映するものではない。

各観光地の課題_那須

- ・際立った課題は見当たらなかったが、那須は自家用車利用者比率が圧倒的に高い。
- ・若者の自動車離れなど自動車保有率の低下が懸念される中、自家用車以外の取り込みが課題。

那須の課題

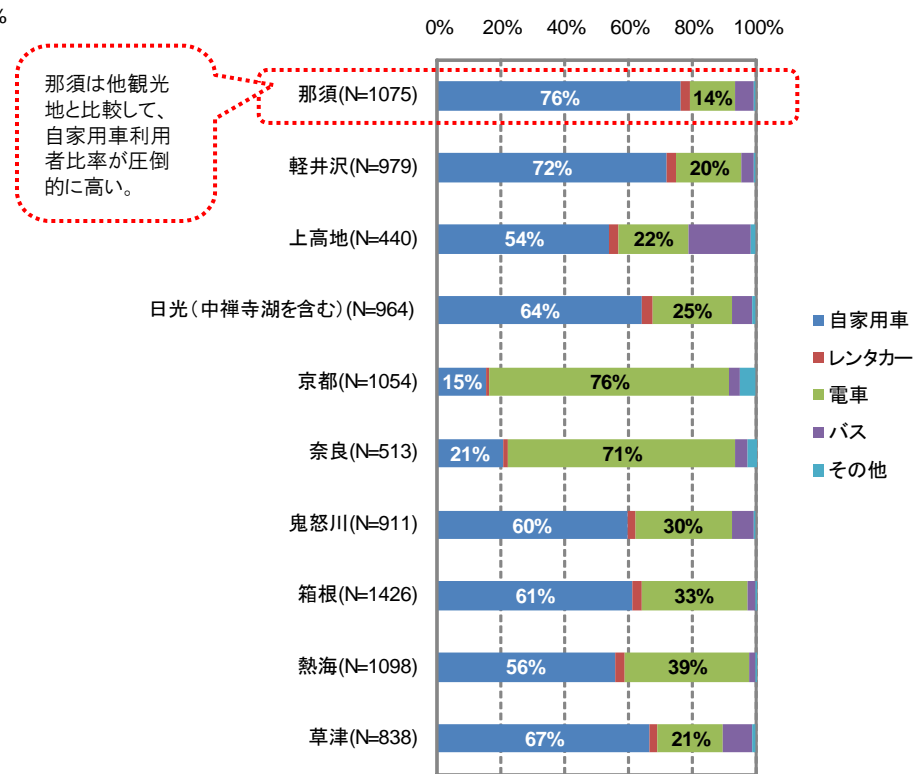
Q. 「那須」の評価として、以下から、あなたのお気持ちにあてはまり、かつ、問題であると思うものをすべてお知らせください。[複数回答]



自動車利用者以外
は十分に楽しめない
可能性。

(参考)観光地へ行く際の交通手段

Q. あなたが過去5年間で宿泊旅行に出かけた際の交通手段について、以下の観光エリアごとにあてはまるものをお知らせください。



那須は他観光地と比較して、自家用車利用者比率が圧倒的に高い。

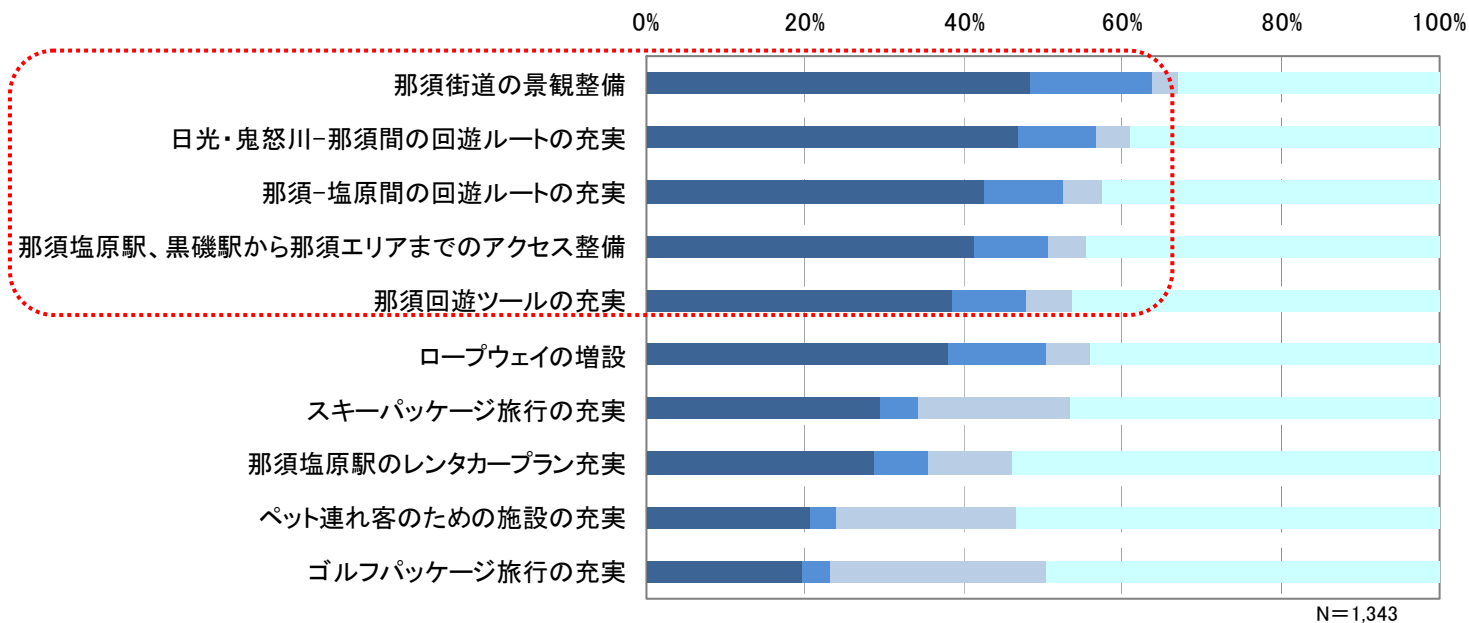
注) 過去5年間の旅行経験者の評価であり、現在の状況を正確に反映するものではない。

活性化に向けた方向性_那須

- ・観光客のニーズが大きい施策は、“那須街道の景観整備”に次いで、“回遊ルートの充実&アクセス整備”。
- ・電車利用客/バス利用客でニーズが大きいと考えられる。

那須の活性化に向けた方向性

Q.「那須」エリアが今後、以下のような変化を遂げた場合の今後の旅行意向として、あてはまるものをお知らせください。



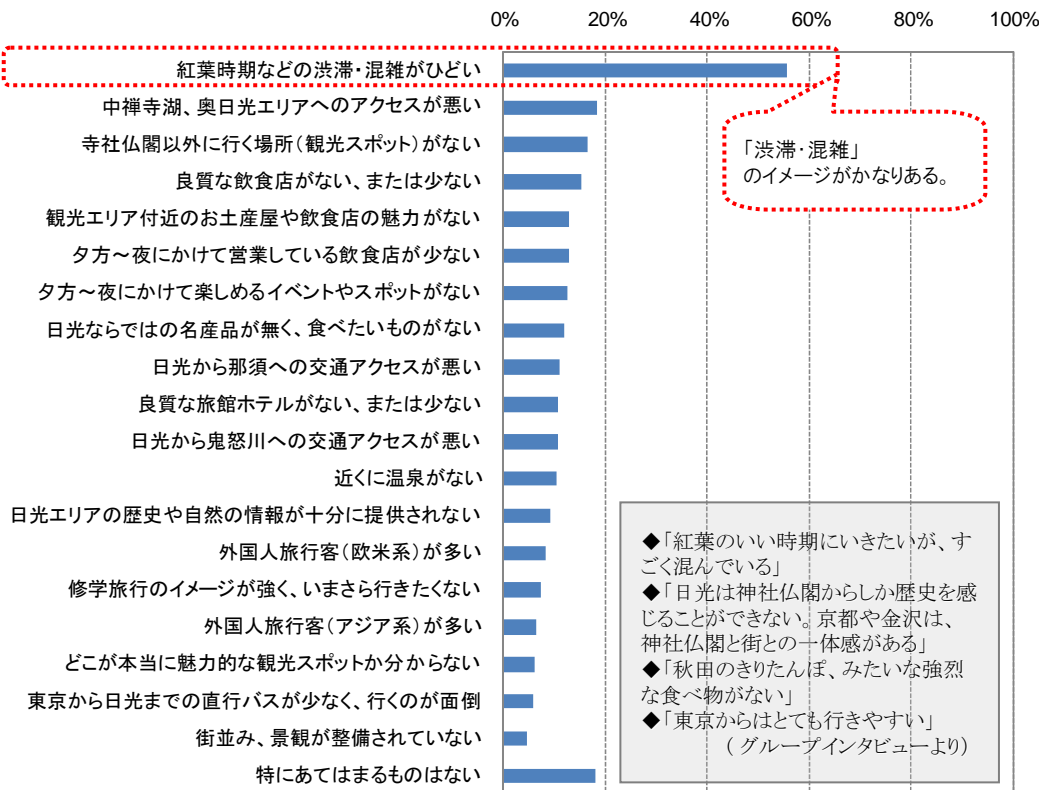
■ 宿泊旅行してみたい ■ 日帰り旅行してみたい ■ 旅行したくない ■ 特にどちらでもない

各観光地の課題_日光

- 日光の問題点としては「紅葉時期などの渋滞・混雑がひどい」が圧倒的に多い。
- 県内他観光地と比較して、文化的観光資源の評価は極めて高いが、宿泊施設等に関する評価は劣後している。

日光の課題

Q. 「日光」の評価として、以下から、あなたのお気持ちにあてはまり、かつ、問題であると思うものをすべてお知らせください。[複数回答]

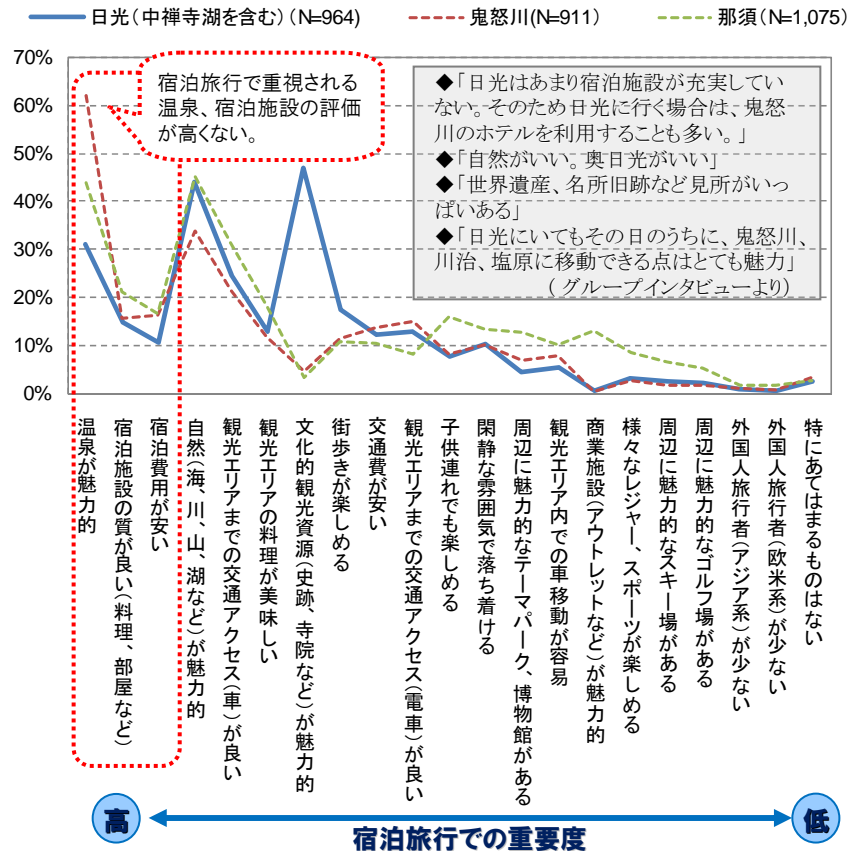


◆「紅葉のいい時期にいきたいが、すごく混んでいる」
 ◆「日光は神社仏閣からしか歴史を感じることができない。京都や金沢は、神社仏閣と街との一体感がある」
 ◆「秋田のきりたんぼ、みたいな強烈な食べ物がない」
 ◆「東京からはとても行きやすい」
 (グループインタビューより)

N=1,412

日光と県内他観光地の比較

Q. あなたが過去5年間で宿泊旅行に出かけた以下の観光エリアごとに、あてはまるものをすべてお知らせください。[複数回答]

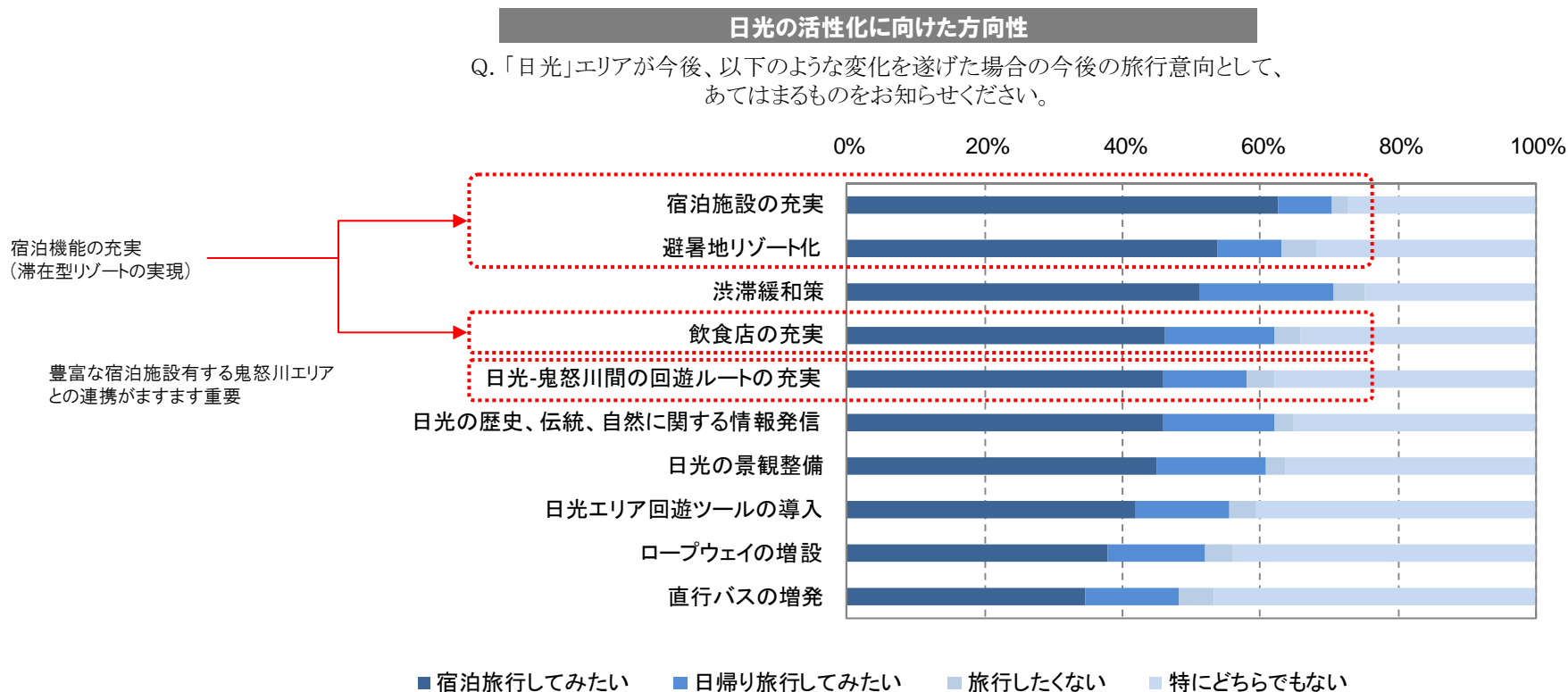


高 ← 宿泊旅行での重要度 → 低

注) 過去5年間の旅行経験者の評価であり、現在の状況を正確に反映するものではない。

活性化に向けた方向性_日光

・「宿泊機能の充実(滞在型リゾートの充実、飲食店の充実)」「渋滞緩和」「鬼怒川回遊ルート of 充実」に対するニーズが大きかった。

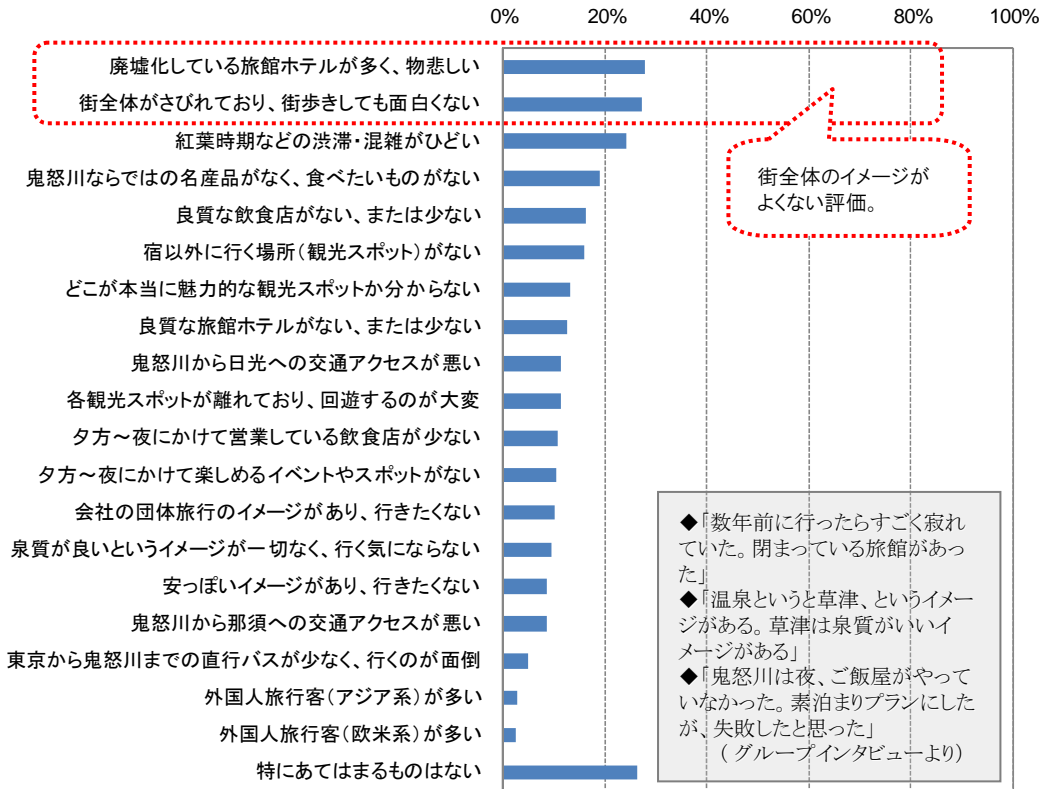


各観光地の課題_鬼怒川

- ・鬼怒川の問題は、景観整備が進んでいるものの、街全体のイメージが良くないと思われる。
- ・競合温泉地と比較すると、温泉以外の分野で、総じて厳しい評価がでている。

鬼怒川の課題

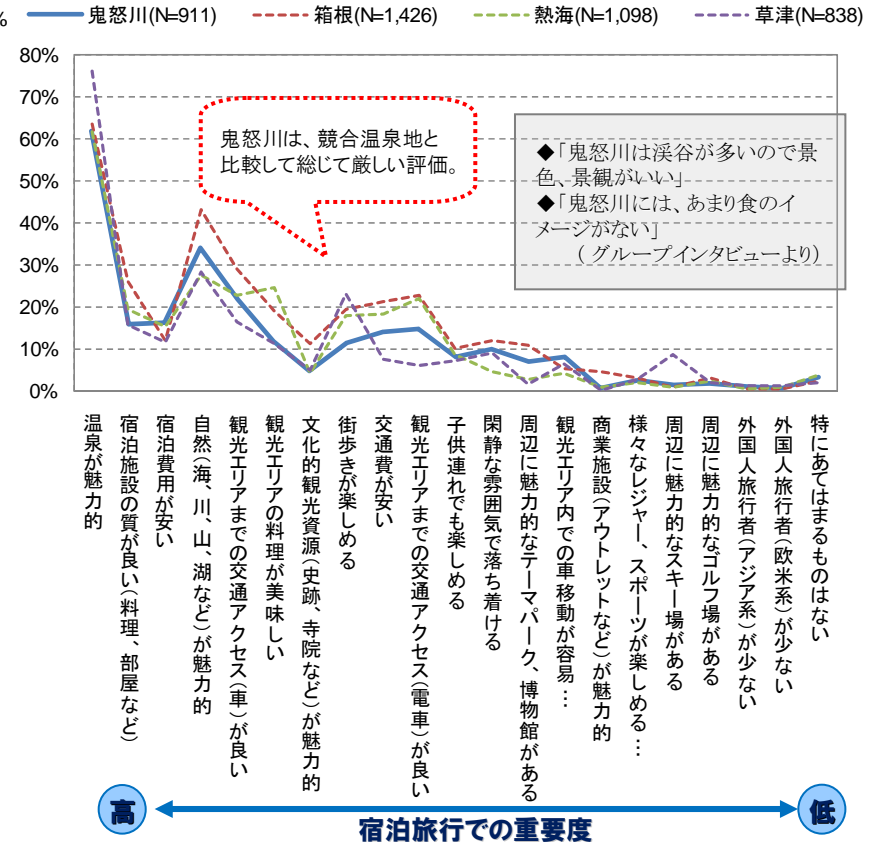
Q. 「鬼怒川」の評価として、以下から、あなたのお気持ちにあてはまり、かつ、問題であると思うものをすべてお知らせください。[複数回答]



N = 1,139

鬼怒川と他観光地の比較

Q. あなたが過去5年間で宿泊旅行に出かけた以下の観光エリアごとに、あてはまるものをすべてお知らせください。[複数回答]



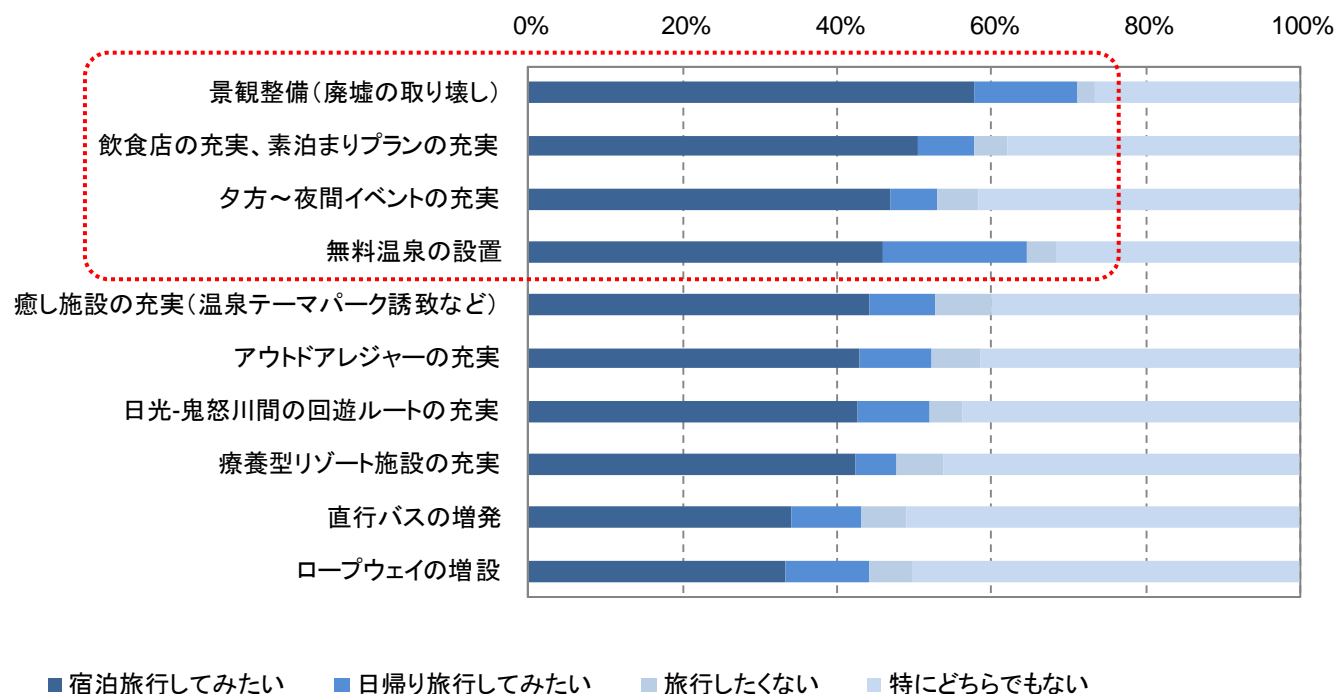
注) 過去5年間の旅行経験者の評価であり、現在の状況を正確に反映するものではない。

活性化に向けた方向性__鬼怒川

・「景観整備」、「飲食店の充実、素泊まりプランの充実」「夕方～夜間イベントの充実」「無料温泉の設置」など街歩きを楽しむためのニーズが大きかった。

鬼怒川の活性化に向けた方向性

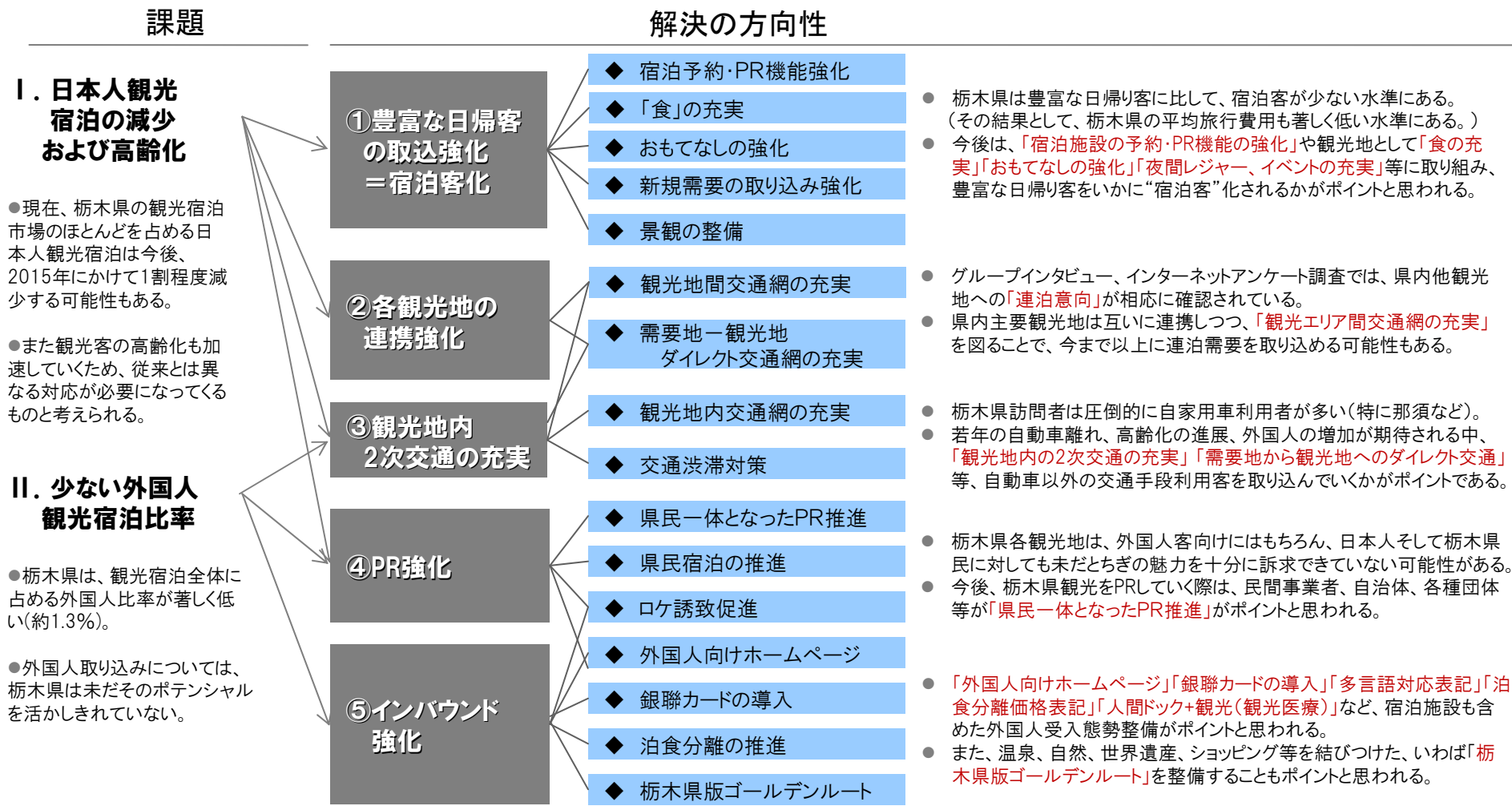
Q.「鬼怒川」エリアが今後、以下のような変化を遂げた場合の今後の旅行意向として、あてはまるものをお知らせください。



1. 栃木県の観光宿泊市場概況 P.02
2. 首都圏在住者の観光旅行実態調査 P.10
(グループインタビュー、インターネットアンケート調査)
3. 栃木県観光市場の課題 P.25

栃木県観光市場の課題_まとめ

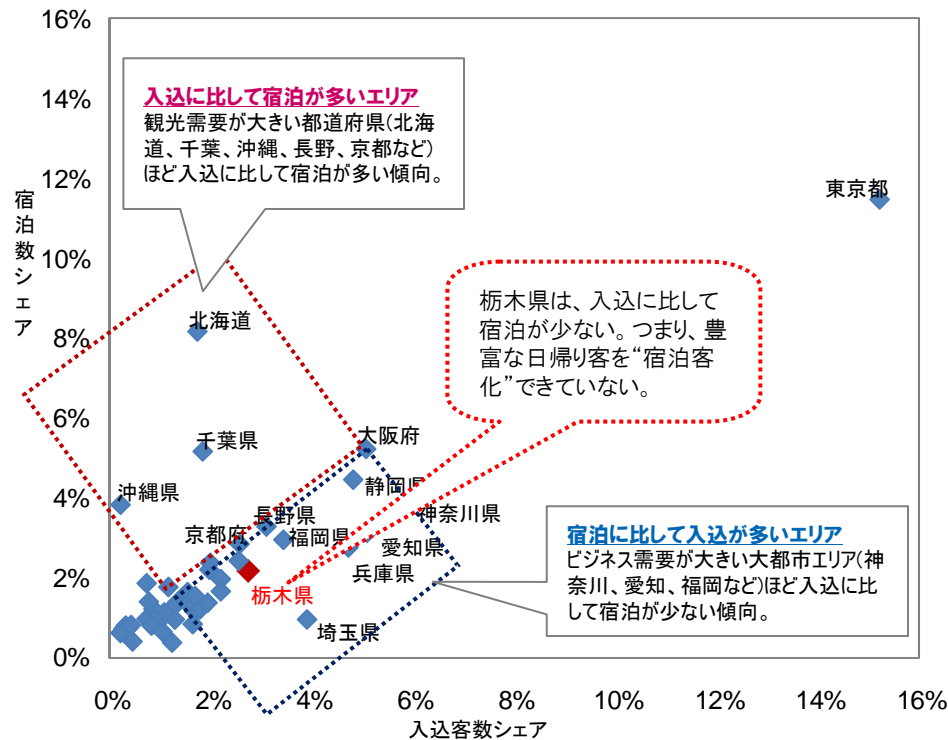
・栃木県観光市場の課題、および解決の方向性は、以下のように集約される。



①豊富な日帰客の取込強化＝“宿泊客”化

- ・栃木県は豊富な日帰り客に比して、宿泊客が少ない水準にある。(日帰り客が多い結果として、栃木県の平均旅行費用も著しく低い水準にある。)
- ・今後は「**宿泊施設の予約・PR機能の強化**」や観光地として「**食の充実**」「**おもてなしの強化**」「**夜間レジャー、イベントの充実**」等に取り組み、豊富な日帰り客をいかに“宿泊客”化させるかがポイントと思われる。。

都道府県別 入込客数(06年)シェア、及び宿泊数(09年)シェア



旅行先別の平均旅行費用[円]

旅行先	平均旅行費用	旅行先	平均旅行費用
1 沖縄県	93,000	24 和歌山県	36,400
2 鹿児島県	61,000	25 岩手県	36,000
3 青森県	60,400	26 石川県	36,000
4 高知県	57,600	27 熊本県	35,500
5 佐賀県	57,000	28 山形県	34,900
6 北海道	56,800	29 宮城県	34,300
7 宮崎県	55,100	30 新潟県	34,000
8 徳島県	51,000	31 長野県	33,800
9 東京都	50,900	32 愛知県	33,500
10 京都府	50,900	33 滋賀県	33,100
11 長崎県	48,400	34 岡山県	32,900
12 香川県	48,100	35 山口県	32,900
13 愛媛県	47,900	36 神奈川県	32,600
14 奈良県	47,300	37 静岡県	31,700
15 富山県	44,600	38 兵庫県	31,600
16 島根県	43,900	39 三重県	31,400
17 大阪府	43,500	40 群馬県	29,500
18 鳥取県	41,000	41 福島県	29,300
19 新潟県	40,500	42 栃木県	29,200
全国平均	39,900	43 岐阜県	28,700
20 大分県	39,500	44 山梨県	28,400
21 広島県	39,000	45 茨城県	27,500
22 秋田県	38,500	46 福井県	26,300
23 千葉県	38,300	47 埼玉県	25,700

日帰り客が多い結果、栃木県の平均旅行費用は著しく低い水準。

出所) (社)日本観光協会「数字で見る観光」、観光庁「宿泊者旅行統計」より作成

※旅行費用・・・交通費、宿泊費、飲食代、土産代を含む旅行1回あたり1人あたりの総費用

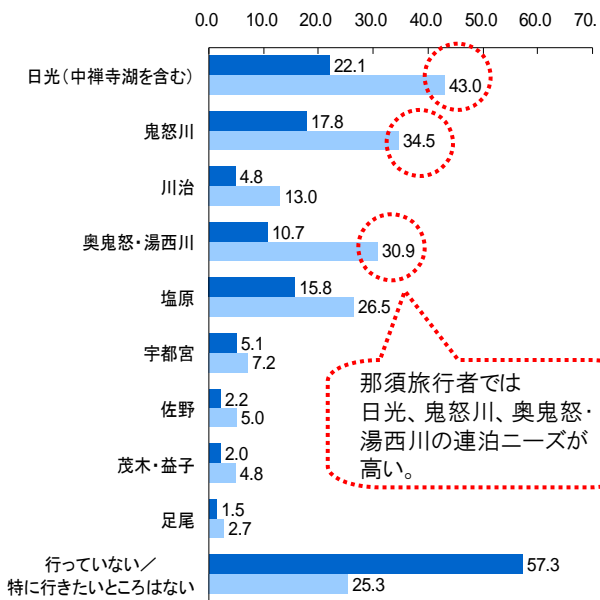
出所) 財団法人 日本交通公社「旅行者動向2009」よりNRI作成

② 各観光地の連携強化

- ・グループインタビュー調査、インターネットアンケート調査では、県内連泊意向が相応に確認されている。
- ・県内の各観光地は互いに連携し、「**観光エリア間交通網の充実**」を図ることで、今まで以上に連泊需要を取り込める可能性もある。

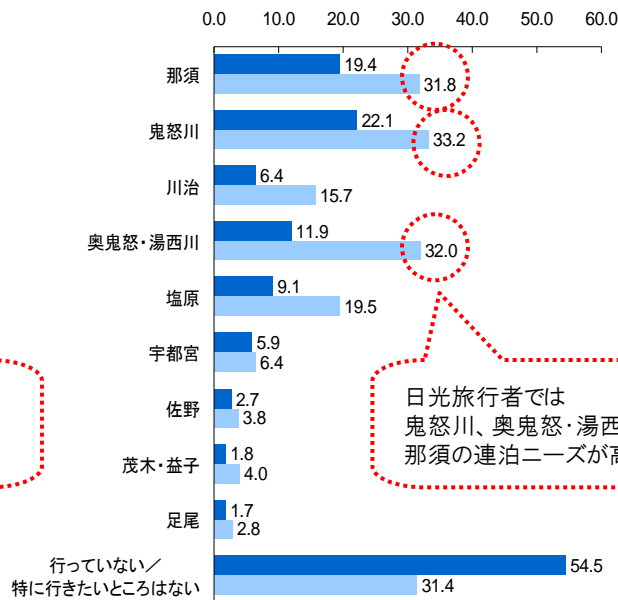
那須からの連泊

Q. あなたが「那須」に宿泊した際、その後栃木県他のエリアに連泊しましたか。また「那須」宿泊後、仮に栃木県内の「那須」以外のエリアに連泊するとしたら、どこに行きたいですか。(それぞれいくつでも)[MA_MATRIX]・(N=1075)



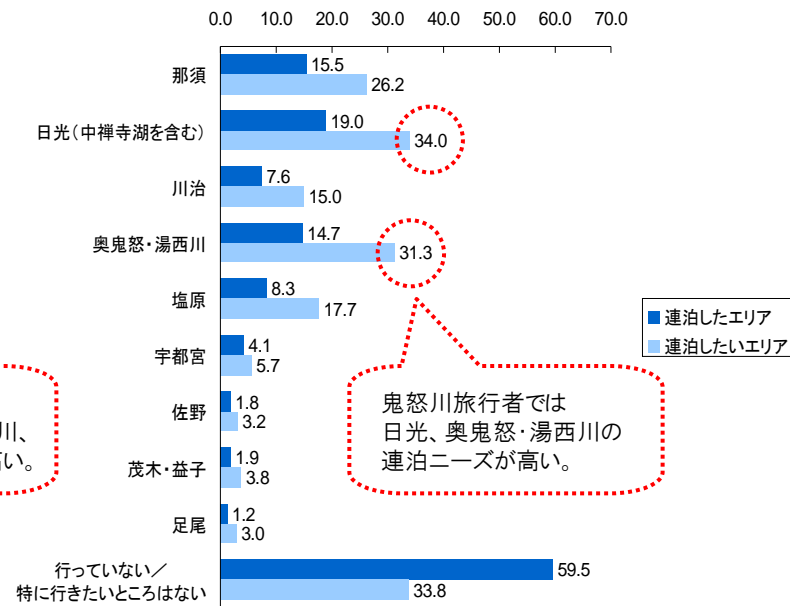
日光からの連泊

Q. あなたが「日光」に宿泊した際、その後栃木県他のエリアに連泊しましたか。また「日光」宿泊後、仮に栃木県内の「日光」以外のエリアに連泊するとしたら、どこに行きたいですか。(それぞれいくつでも)[MA_MATRIX]・1.連泊したエリア(N=964)



鬼怒川からの連泊

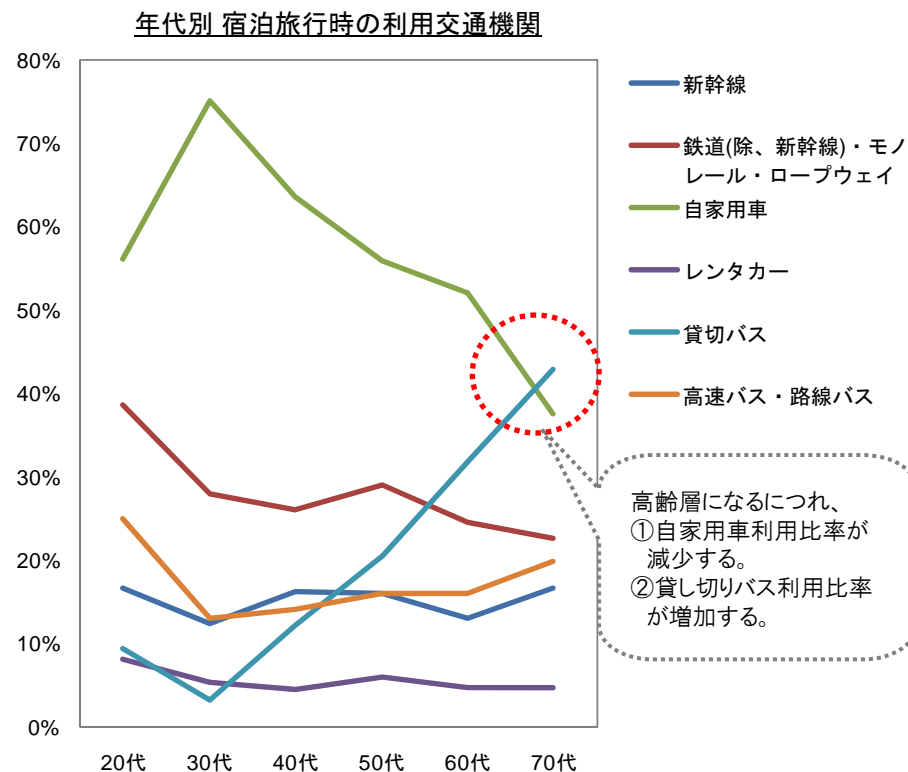
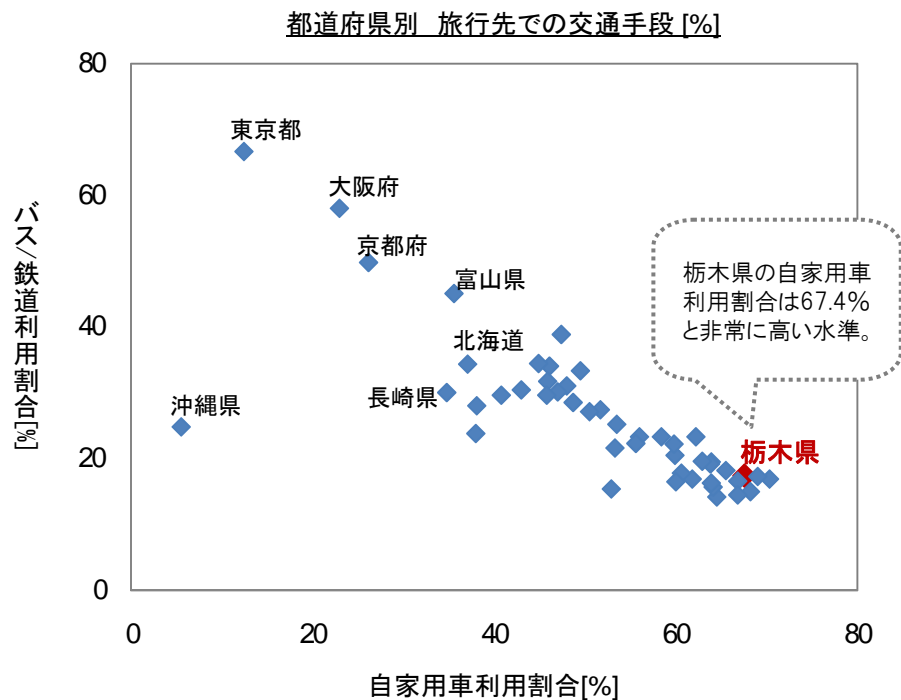
Q. あなたが「鬼怒川」に宿泊した際、その後栃木県他のエリアに連泊しましたか。また「鬼怒川」宿泊後、仮に栃木県内の「鬼怒川」以外のエリアに連泊するとしたら、どこに行きたいですか。(それぞれいくつでも)[MA_MATRIX]・1.連泊したエリア(N=911)



出所) 当社「首都圏在住者の観光旅行実態調査」

③ 観光地内2次交通の充実

- ・少子高齢化の進展に伴い、宿泊者の利用交通機関も変化している（自家用車からバスへ）が、本県は圧倒的に自家用車利用者が多い（特に那須など）。
- ・今後、日本人観光客の少子高齢化、若年層の自動車離れが進む中、また外国人観光客の増加が期待される中、
「観光地内の2次交通の充実」「需要地から観光地へのダイレクト交通」を図るなど、自家用車以外の交通手段利用客を取り込んでいくかがポイントである。



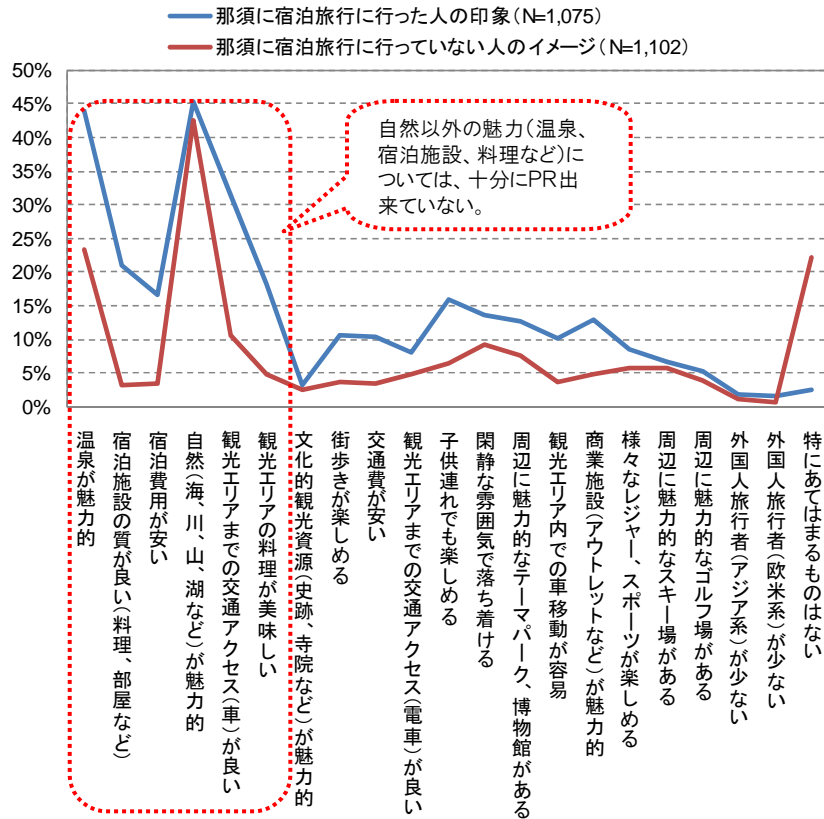
出所) 財団法人 日本交通公社「旅行者動向2009」より作成

出所) 観光庁「2007年度旅行・観光消費動向調査」より作成

④ PR強化

栃木県の各観光地は、外国人客向けにはもちろん、日本人そして栃木県民に対しても未だ栃木県の魅力を十分に訴求できていない可能性がある。
 今後、栃木県観光をPRしていく際は、民間事業者、自治体、各種団体等が「**県民一体となったPR推進**」がポイントと思われる。

那須の宿泊旅行経験者と非経験者の比較（再掲）



出所) 当社「首都圏在住者の観光旅行実態調査」

⑤インバウンド強化

「外国人向けホームページ」「銀聯の導入」「多言語対応表記」「泊食分離価格表記」「人間ドック+観光(観光医療)」など、宿泊施設も含めて外国人受入態勢の整備がポイントと思われる。また、温泉、自然、世界遺産、ショッピング等をつなげた、いわば「**栃木県版ゴールデンルート**」を整備することもポイントと思われる。

09年延べ宿泊者数に占める外国人比率(再掲)

1	東京都	18.5%	24	茨城県	2.0%
2	大阪府	12.5%	25	長野県	1.9%
3	千葉県	10.5%	26	宮崎県	1.8%
4	山梨県	10.2%	27	宮城県	1.7%
5	京都府	9.6%	28	青森県	1.7%
6	愛知県	7.5%	29	三重県	1.6%
7	北海道	7.4%	30	秋田県	1.6%
	全国平均	6.1%	31	岩手県	1.6%
8	神奈川県	5.4%	32	鹿児島県	1.5%
9	長崎県	5.2%	33	愛媛県	1.4%
10	岐阜県	4.3%	34	岡山県	1.4%
11	福岡県	4.2%	35	佐賀県	1.4%
12	大分県	4.2%	36	栃木県	1.3%
13	熊本県	3.8%	37	新潟県	1.2%
14	兵庫県	3.8%	38	香川県	1.2%
15	滋賀県	3.5%	39	徳島県	1.1%
16	広島県	3.5%	40	山形県	1.0%
17	奈良県	3.1%	41	山口県	0.9%
18	静岡県	2.8%	42	高知県	0.9%
19	和歌山県	2.6%	43	福島県	0.8%
20	沖縄県	2.5%	44	福井県	0.7%
21	埼玉県	2.3%	45	群馬県	0.7%
22	富山県	2.2%	46	鳥取県	0.6%
23	石川県	2.2%	47	島根県	0.5%

他都道府県と比較して、外国人の宿泊者は少ない。

出所) 観光庁「宿泊旅行統計」より作成